

(機関名 :)

平成27年度フォローアップ結果への対応状況 (イメージ)

機関名				
統括責任者	役職		実施責任者	部署名・役職
	氏名			氏名

※本報告書の記載内容は、必要に応じて研究大学強化促進事業推進委員会からのコメントを付し、文部科学省ホームページにおいて原文のまま公開する。

平成27年度フォローアップ結果
評点区分：特筆すべき進捗状況にある
全体を通じた所見
<p>○ 本事業目的を理解し、大学組織全体として対応されている。予算を自主的に補充しつつ、効果的に全学の支援に対応して成果を上げつつあることが確認され、特筆すべき進捗状況にある。</p> <p>○ 採用したURAは、外国籍を含め、多様な専門分野、経験、年齢等をカバーしており、自主財源による部局URAとの連携も確保され、総合大学としての教育研究の一層の発展に資する体制が整いつつあり、今後の展開に大きな期待がもてる。</p>
特に優れた点
<p>○ 副学長・副理事職を見据えたURAのキャリアパス制度も整備が完了しており、スキルアップに対応して、学術政策研究員(65歳定年)としての職制を導入し、長期的に維持するための体制が整備されており、他大学のモデルとなりうる取組である。</p> <p>○ 学内資源の重点配分(戦略的ポストの確保、学内財源配分の見直し)、URAの教育システム、多様な産学連携を推進し、成果を上げつつあるIndustry on Campus、国際ジョイントラボなどの取組は、研究力強化に大きな力となっていると判断され、優れた取組である。</p>
期待する点
<p>○ 教員・研究員の公募は、国際公募を基本とする方向で進めつつあるが、その学内定着に向け、一層の努力を期待したい。</p> <p>○ 豊富なURA組織の一層の活性化により、国の政策情報、国際的研究動向、学内研究力の調査分析に基づき、目指す国際的地位に相応しい研究戦略の策定を行い、大型研究プロジェクトの企画立案など、教員の負担軽減に資するプレアワード系業務に至る学内URA体制の一層の強化を望みたい。</p>

(機関名：)

平成 27 年度フォローアップ結果コメントに対する事業の課題と展望

研究大学強化促進事業推進委員会コメント